

令和2年度の事中評価は、下表のとおり188事業（全207事業中）について評価を行い、161事業を「計画通り進める」、27事業を「改善を検討」と判定しました。

政策評価委員会による外部評価では3事業が選定され、3事業すべて「計画通り進める」と判定されました。

**令和2年度の事中評価結果**

続く二次内部評価では、副町長が一次内部評価と外部評価の結果を踏まえ、次年度の予算編成と併せて事業担当課へのヒアリングを行い、評価判定を決定します。

最終内部評価では、町長が二次内部評価の結果を踏まえ、次年度の予算編成と併せて事業担当課へのヒアリングを行い、最終的な評価判定をします。

担当課、副町長、町長の3段階にわたる「内部評価」と町民目線による「外部評価」により、事業を適切に評価し、より効果的で実行性のある事業の実施に向けた改善に取り組んでいます。

まちの事業をしっかりとチェック！

# 政策評価

町では、栗山町自治基本条例第27条の規定により、総合計画の施策目標に基づき実施する計画事業の進捗状況などを評価・検証し、次年度の改善につなげる政策評価を、平成20年度から実施しています。

令和2年度の政策評価（事中評価）結果がまとまりましたので、実施概要と併せてお知らせします。

【問い合わせ】 町経営企画課地域政策グループ ☎ 73-7502



**政策評価の結果（令和2年度事中評価）**

評価判定項目	一次評価	外部評価	二次評価	最終評価	割合（対前年比）
計画通り進める	161 事業	3 事業	161 事業	161 事業	85.64%（↑ 6.50%）
改善検討	（事業費）	1 事業	1 事業	1 事業	14.36%（↓ 6.50%）
	（事業内容）	14 事業	15 事業	15 事業	
	（その他）	12 事業	11 事業	11 事業	
抜本的見直し	0 事業	0 事業	0 事業	0 事業	0.00%（↓ 0.55%）
合計	188 事業	3 事業	188 事業	188 事業	

**評価の仕組みと流れ**

政策評価は、町長、副町長、事業担当課により計画事業の評価を行う「内部評価」と、町民目線の客観的な評価と提言を行う「外部評価」により進めます。

内部評価は、年2回実施し、まず、年度の中間となる9月までの事業実施状況に対する評価を「事中評価」として、10月から翌年2月にかけて次年度の予算編成と併せて行います。「事中評価」の結果は、当年度の成果達成に向けた改善策および次年度へ向けた見直しと予算に反映します。次に、3月には、当年度1年間の事業実績を踏まえて「事後評価」を行い、次年度の成果達成に向けた改善策に反映します。

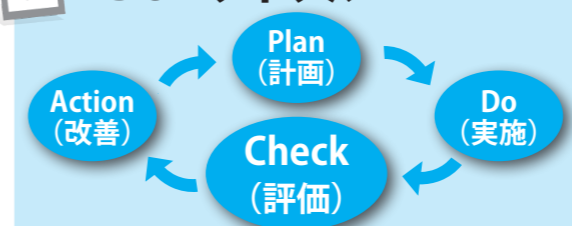
これは、継続的に事業を改善し、PDCAサイクル（下図参照）による実効性のある事業を展開していくために欠かせない仕組みです。

政策評価の対象は、平成27年度からスタートした、町の最上位計画「第6次総合計画」に位置付けている事業です。

流れとしては、はじめに一次内部評価として、事業担当課が事業ごとに設定した活動指標および成



**PDCA サイクル**



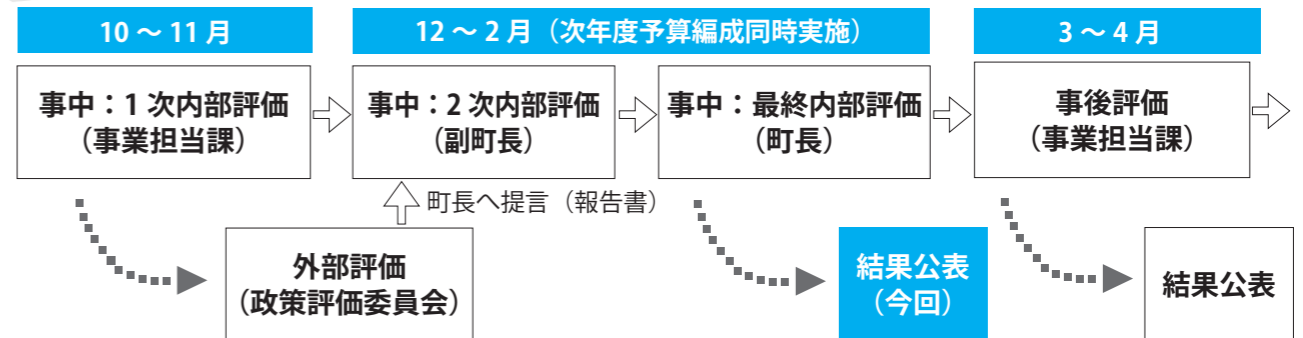
Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の視点を事業の循環過程とし、成果を重視し継続的な改善を推進するマネジメント手法

果指標の実績を把握します。次に、前年度の評価で出た改善内容や現状の課題を検証し、評価判定を行うとともに、今後の実施方針を決定します。

並行して進められる外部評価では、公募した町民などで構成される政策評価委員会が特に関心の高い事業を評価事業として選定。次に、現地視察や事業担当課へのヒアリングを経て、評価対象事業の理解を深め、一次内部評価の結果も踏まえながら町民目線で評価を実施。最後に、評価判定と改善策の提案などを報告書にまとめ、二次内部評価前に町長へ提言します。



**政策評価の流れ**



**外部評価**

**町民目線によりよい事業を政策評価委員会が報告書を提出**



- ◆ 政策評価委員（任期2年）
- ◇ 委員長 八木橋 義則
- ◇ 副委員長 小原 純
- ◇ 委員 鈴木 克典  
（北星学園大学教授）
- ◇ 委員 菊地 愛実
- ◇ 委員 西岡 政則

政策評価委員会は「ふるさと自然体験教育の推進と拠点施設の活用を図ります」「ストレス要因の軽減や早期発見・支援などこころの健康づくりを推進します」「高齢者の社会参加と活動の場づくりを推進します」に関する3事業について報告書をまとめ、令和2年12月23日、町に提出しました。

委員会は9月から8回にわたり開催。対象事業についてのヒアリングなどを行い、有識者委員である北星学園大学の鈴木克典教授の助言を受けながら、事業内容の把握に精力的に取り組みました。

八木橋委員長は「限られた時間の中ではありましたが、各委員のそれぞれの目線から議論を重ね、事業評価しました。今後の町政向上の一助になれば幸いです」と述べ、報告書を受け取った佐々木学町長は感謝の意を伝えました。